



今月の題字

山崎翔太君
(山田南小4年)

町のわだい

「とよまね音頭」の発表会 郷土の新しい歌の完成祝う

6月3日、白山神社例大祭に合わせて「とよまね音頭」発表会（同実行委員会主催）が開かれ、お披露目会場となった神社入り口広場には大勢の地区民らが詰め掛けました。音頭の作詞は豊間根彪さん（豊間根）、作曲は菊池富喜さん（紫波町）が手掛け、このたび残りの振り付けがようやく完成。郷土の歴史や文化を伝える歌詞に心地よいリズムと振り付けが加わり、親しみやすい音頭に仕上がりました。曲が流れると観衆から手拍子が起こるなど、地区民みんなで郷土の新しい歌の完成を祝っていました。



伊藤さんが町に50万円寄付 父の遺志受け地域のために

伊藤敏さん（豊間根・53歳）が、町に50万円を寄付しました。4月に亡くなった父清さんの遺志により、町に寄付金が贈られたもので、伊藤さんは6月15日に役場を訪れ「父は生前、山田町の皆さんに大変お世話になりました。町の皆さんのため、地域づくりの活動にお役立ていただければと思います」と沼崎喜一町長に寄付金を手渡しました。これに対し沼崎町長は「ありがとうございます。伊藤さんのお志に沿うよう、大切に使用させていただきます」とお礼を述べました。



荒川小児童が「かがやき訪問」 昔遊びなどで交流を深める

6月12日、荒川小学校（高橋尚子校長・児童40人）の1、2年生14人による「かがやき訪問」が行われました。これは、同校児童と地域住民との交流を図ることを目的とし、2年前から活動しているものです。会場となった荒川農産物加工施設には、荒川地区の住民16人が来場。児童たちの自己紹介に続いて1年生は劇「はなのみち」、2年生はかっこうの演奏と劇「ふきのとう」を披露しました。続いて子供たちはお手玉やけん玉を地区の皆さんに教わりながら一緒に遊び、共に楽しい時間を過ごしていました。

夢花倶楽部の押し花展に350人 鮮やかな作品の数々楽しむ

6月23日と24日、押し花サークル「夢花倶楽部inやまだ」（伊藤キメ代表）主催の押し花展が開催され、2日間で350人が来場しました。同サークル結成10周年となる今回は、町中央公民館を会場に行われ、押し花絵60点や押し花を使ったコサージュ、しおりなどが展示されました。会場には山田中と山田高の茶道部生徒による呈茶席も設けられ、訪れた人たちは花で色鮮やかに彩られた作品の数々を楽しんだり、お茶を味わったりするなど、ゆったりと時間を過ごしていました。



パークゴルフ大会に51人 深緑の中さわやかな汗流す

6月10日、パークゴルフ大会が船越家族旅行村で開かれました。浦の浜地区の有志で作るB G浦の浜会（藤原長一会長・会員8人）が公園を楽しく利用してもらおうと開催したもので、大会には町内外から51人が参加。さわやかな青空の下、参加者は公園内に作られた27ホールに挑戦し、心地よい汗を流しました。なお、当パークゴルフ場は4月から10月の期間中午前9時半から午後4時半まで、どなたでもご利用できます。使用料は無料ですが、用具レンタル料とコース維持費がそれぞれ50円ずつ必要となります。詳しくはB G浦の浜会事務局（船越家族旅行村内 ☎84-2192）へお問い合わせください。

マナビネット ワークinやまだ 特別講演会に桂文喬さん 幼児期のしつけ重要性説く

6月3日、マナビネットワークinやまだ特別講演会が開かれました。会場となった町中央公民館には450人が来場。落語家で教育評論家の桂文喬さんを講師に迎え「笑いはたっぷり、躾はしっかり」をテーマに講演が行われました。ご自身の子育て経験談を交えたユーモアあふれる話に、会場は常に笑いに包まれていました。桂さんは「子供には小さいうちから我慢する心や古くからの慣習、礼儀作法などをしっかり教えてあげてください。勉強としつけは両輪です。どちらかに偏れば曲がった方向に進んでしまいます。勉強だけができる子よりも、人間ができた子を育ててあげてください」と幼いときからのしつけの大切さについて語っていました。

